

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

January
ISSUE



January 2025
Volume 152

新年を迎えて

新年あけましておめでとうございます。本年も引き続き、皆様方からのご支援、ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

2024年もAI（人工知能）は、かなり進歩し、できることが増えたり、よりその精度が高くなったりしました。2025年度も引き続きその流れは変わらず、益々進歩していくものと思われまふ。いつかは、人間の頭脳を超えと言われており、人間はAIを制御できなくなってしまうと危惧されています。これは、少し前までは、嘘か誠かといった印象でしたが、2025年を迎えてかなり現実味を帯びてきました。数年後には、想像できないくらいのAIが登場しているかもしれません...

現在のAIでも素敵な静止画や動画を生成してくれたり、人間そっくりな音声でしゃべったり、人の代わりに文章を作ってくれたりします。ただ、その中には、間違っただけ情報が含まれていたり、偏った考えに基づく出力結果になってしまったりすることがありますので、まだまだ安易に信用することは禁物です。

でもこの現象に対して、目くじらを立てて批判するのではなく、少し冷静に捉えてみてください。人間もいつも完璧で、正しいことばかりができる人はいないので、AIも同じだと感じることはできませんでしょうか。このように捉えていただいても良いかとも思います。しかし、なんとなくモヤモヤした気持ちになるかもしれません。その違和感の正体は「信頼」かもしれません。人間は完璧でない場合や嘘を言うとき、目が泳いだり、声が震えたりなど無意識に何かしらのヒントを

与えてくれます。一方、AIは、そんな素振りは一切せず、正々堂々と間違っただけを出力します。そのため、安易に信頼してしまうと、まんまとそれに引っかかってしまうのが怖いところです。

AIは非常に便利なものです。しかし、使い方を間違えると非常に危険です。これは、例えば包丁と同じです。包丁がなければ、私たちはうまく料理をすることはできず、なくてはならないものです。しかし、使い方を誤れば、怪我をすることにもなりかねませんし、最悪の場合、それは人を傷つけるものにもなってしまいます。

何をすれば危ないのか、どう使えば安全なのかは、まずその特徴や原理を知ってから使ってみて初めて分かるものではないかと思ひます。もちろん、適切な年齢、知能が必要です。いつからそれを知り、使うのかは難しいところがあるかと思ひます。しかし、「危ないから」と、いつまでも知らず、触れずにいると、恐怖心が産まれたり、タブーとされてしまったりして、まったく使えない、または、拒絶反応を示してしまうようになる可能性があります。

どんな物事にも裏と表があり、光が当たれば影ができます。どちらかだけを見るのではなく、それらの両面を見て、それぞれの本質を見極めながら信頼できるものに信頼して接することが求められます。子供達には、ぜひ、この物事の本質を見抜く能力を付け、伸ばしてほしいと思ひます。そして、それをサポートする私たち大人も、子供たちと共に学び、成長し続けたいと思ひます。

校長 土屋 誠司



キリスト教教育

1月：信仰・信頼 January: Faith/Trust

「私たちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に存続するからです。」 (コリントの信徒への手紙Ⅱ4章18節 聖書協会共同訳)

既に年末の話になりますが、筆者には毎年クリスマスが近づくと必ず観たくなるホーム・コメディ映画があります。「ジングル オール・ザ・ウェイ (Jingle All The Way)」というタイトルで、1996年にアメリカで制作された作品です。

会社の仕事で忙殺された毎日を送っている一人のビジネスマンが主人公です。彼はいつも息子との約束を破ってしまい、父親としての信頼を失いかけていましたが、あるクリスマス・イブの前の晩、息子が一番欲しがっているテレビ番組のヒーロー人形を買ってあげる約束をして、何とか息子と仲直りします。ところがそれはもうずっと前から彼へのクリスマス・プレゼントとして買っておくようにと妻から頼まれていた品で、男性はそのことをすっかり忘れてイブの日を迎えてしまったのでした。慌てて家族に内緒で町のおもちゃ屋を方々訪ね、お目当ての人形を探しますが、今大流行のヒーロー人形は既にどこのおもちゃ屋でも品切れで、手に入れることができないまま、息子と一緒に観ることを約束していたクリスマス・パレードの時間だけが刻一刻と迫っていました。

毎年恒例のクリスマス・パレードは、子供連れの家族らを中心に町中の人々の注目を集める行事でしたが、特に今年の花形はテレビ番組のヒーロー達を乗せた大きな車でした。人形を巡るドタバタ騒ぎの末、ひょんなことからパレードの舞台俳優たちの楽屋裏に迷い込んだ主人公の男性は、リハーサルで大怪我をして本番に来ることができなかった俳優の代役と間違われ、あっという間にヒーローのコスチュームを着せられてパレードの表舞台に立たされます。そして「これを自分が選んだ一人の『良い子』に手渡すのがお前の仕事だ。」とスタッフに囁かれ、持たされたのが、夢にまで見たあのヒーロー人形だったのでした。男性はあまりの嬉しさに、夢見心地で人形を抱き締めます。そして沿道で観客の一人としてこちらに手を振っていた我が子を見つけ、彼の名前を呼んでヒーロー人形を手渡すのです。

しかしそこへ現れたのが、こちらは意図的に俳優のコスチュームを奪って本物の悪役になりきった郵便配達夫でした。彼もまたストーリーの初めから、一人息子へのクリスマス・プレゼントにと必死にヒーロー人形を探し求め走り回っていた、男性のライバル的存在でした。ヒーローに扮して本物のヒーロー人形を我が子に手渡した主人公の男性に出し抜かれまいと、悪役のコスチュームで男性の息子を追いかけまわし、彼のリュックの中に収められた人形を奪おうとします。追いかけては激しさを増し、遂に息子が高所で追い詰められて地上に落下する危険に晒された時 (ここは少々現実離れたアクションなのですが)、主人公の男性はヒーローのコスチュームに備わっていたジェット噴射などの七つ道具を短時間で使いこなして息子を救い出し、今や悪役となり果てた郵便配達夫を警察に引き渡すことができたのでした。

しかし、映画の圧巻はここからです。悪役と空中戦を繰り広げ、憧れのヒーローに助けられて共に大活躍をした今の光景を、パパにも見てもらいたかったのに…きつと自分がパパにきつく言ったことで怒っているからパレードに来なかったのだ…と一人でしょげ返る我が子に向かって、「パパはいつでも君たち家族のことを愛している。」と語り、そこで初めてヒーローのヘルメットを脱いで、主人公の男性は妻子に自分の正体を明かします。

片や警察官に取り囲まれ、少年から盗んだ人形を取り上げられた郵便配達夫は、自分が捕まったことよりも一旦手にしたヒーロー人形を再び失ってしまったことを悲しみます。息子に申し訳が立たない、と。その時、自分の手の中に戻って来たヒーロー人形を数秒見つめていた主人公の男性の息子は、突然その人形を郵便配達夫に差し出し、「メリークリスマス!」と言ってあっさりプレゼントしてしまったのでした。あれだけ欲しがっていてやっとのことでも手に入れた人形を、一体なぜ手放したのか…?主人公の男性は戸惑いますが、息子はきっぱりとこう答えるのです。

「人形は要らないよ、だって家に本物のヒーローがいるんだもの!」

一度失いかけた家族の信頼と絆を取り戻すために父親が奮闘する物語ですが、少し見方を変えると、目に見える人形を通してしか父親の愛を感じられなかった少年が、最後に命がけで自分を守ってくれたヒーローが父親だったことを知り、目に見えない貴い愛情で心が満たされ、もはや物質的に愛を確かめたいとは思わなくなった…という、少年の心の成長を描いた物語とも取れます。

Christian Education Committee チャブレン 石川眞弓

<お知らせ>

1月の「おにぎり献金」は、1月15日(水)です。

- ・国内：岩手キリスト教学園認定こども園宮古ひかり、福島県の若松聖愛幼稚園、熊本県の慈恵病院「こうのとりのゆりかご」、北陸学院キリスト教センター「石川県能登半島地震支援金口」
- ・海外：日本ユニセフ協会「ウクライナ緊急募金」・「シリア緊急募金」・「ガザ人道危機緊急募金」

昨年に引き続き、上記の施設にお捧げします。ご賛同いただける方は、お子様に献金をお持たせください。

Grade 5 宿泊学習 — 安中を訪ねて —

群馬・東京への旅

5年生は、11月13日（水）から15日（金）、宿泊学習として群馬と東京を訪問しました。天候にも恵まれ、3日間充実した体験をすることができました。



日本の近代化と工業

秋学期の「工業」を中心とした探究に関連して、富岡製糸場を見学し、日本の近代化を支えた製糸業について学びました。レンガ造りの歴史的な建物や、女工と呼ばれる人達が働く様子を知り、ガイドさんのお話に耳を傾けながら当時の様子を思い巡らせました。



新島襄先生の足跡を訪ねて

群馬県の安中は、新島襄がアメリカから帰国した後、日本で初めて伝道した地です。新島家旧邸と安中教会では、新島襄の足跡を辿ることで、安中市と新島襄が深い関係にあることを学びました。



新島学園では、チャペルで中学生との交流会を持ちました。新島学園からはハンドベルの演奏がありました。DIA 代表チームは、探究学習の紹介としてプレゼンテーションする機会をいただき、今年も子ども達同士の親交を深めることができました。



仲間との絆

聖書に「葡萄の木」の一節があります。新島襄から始まる枝に繋がった一人ひとりが、たくさんの人に支えられていることに感謝し、これから豊かな実を結ぶことを願います。



わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶ。わたしから離れては、あなたがたは何もできないからである。ヨハネによる福音書 15章 5節



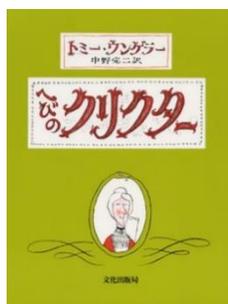
からのおしらせ

新しい年の始まりです

明けましておめでとうございます。新しい年が皆様にとって素晴らしい年となりますよう祈念いたしています。新しい年と言えばやはり干支が話題となります。そこで、2025年の「へび」についての本をご紹介します。

『へびのクリクター』作・絵：トミー・ウンゲラー

訳：中野 完二出版社：文化出版局



ルイズ・ボドさんがブラジルに住む息子から贈られたお誕生日のプレゼントは、ボア・コンストラクターという毒の無いへびでした。クリクターと名づけられたへびは、本当の子供のように可愛がられ育ちます。ボドさんは先生なのでクリクターと一緒に学校へ行き、子供たちの間でも人気者になりました。ところが、ある日、ボドさんの家にどろぼうが入り、騒動が起こります……。

『へびくんのおさんぽ』作・絵：いとうひろし

出版社：鈴木出版



へびくんがおさんぽしていると大きな水たまりが…。へびくん、体を伸ばして渡ろうとしますが、みんながやってきて…。文章も短く、とても読みやすくなっています。

『十二支のはじまり』作：谷 真介 絵：赤坂 三好

出版社：佼成出版社



神様が元旦の朝、御殿に来た順に年の王様にする、と動物たちに言いました。十二支の動物と順番が、どのようにして決まったか楽しく語られています。

『えとえとがっせん』作：石黒 亜矢子

出版社：WAVE出版



けものはみんなびょうどうだ！
いつも威張っている十二支に、今度こそぎやふんと言わせたいたぬき。ある満月の夜、十二支をお山に呼び出します。お山の仲間達と一緒に十二支をやっつけようと勝負を挑みますが…大人気の石黒亜矢子が放つ、奇想天外な干支アクションコメディ。絵巻物「十二類絵巻」を下敷きにしつつ、大幅にアレンジした作品。ひとつひとつ大切なことに気づかされる、さわやかでワクワクがいっぱいのお話です。

1月の主な行事・予定

1月1日～1月6日 冬季休業日
1月10日(金) 避難訓練
1月30日(木)～31日(金) G6 Exhibition

1	水	元旦 / New Year`s Day
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	Unit5(Week5) 始業礼拝(午前授業/PYPプラン) / Opening Worship Service, PYP Planning (AM lessons)
8	水	G4 推薦進学説明会 / G4 Explanatory MTG of recommendation 委員会 / Student`s committees
9	木	新1年オリエンテーション / New G1 induction day
10	金	避難訓練 / Evacuation Drill, (G1・3・5引き渡し訓練) / The drill of taking children over parents(G1,3,5)
11	土	
12	日	
13	月	成人の日 / Coming of age day
14	火	Unit5 (Buffer Week)
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	Unit6(Week1)
21	火	
22	水	クラブ / Club Activity
23	木	校祖永眠の日 / Memorial Day of our school founder
24	金	創立者永眠祈念礼拝 / Founder`s Eternal Rest Memorial Service
25	土	
26	日	
27	月	Unit6 (Week2)
28	火	
29	水	
30	木	G6 Exhibition
31	金	G6 Exhibition / G1-5 Half Day

2月の主な行事・予定